

警城時報

行設日一十
印刷所 警城時報社
發行所 警城時報社
一部金貳圓 一月金貳拾圓
廣告料 一行十文字五十五錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

悪どい司法書士 裁判所を欺む

料亭で飲ませて印鑑を盗用

双葉郡富岡町大字下郡山字原下上に盗用し債権者双葉郡龍田村平市一町目谷口安治君は人生の二七司法書士三瓶吉之助(三九)三浦某 債権者松本隆の千八百圓を發行五十錢で發賣する。双葉郡龍田村大字井出字立石農園と千二百圓の借用證書を偽造。業關根清(三九)の兩名は共謀し裁判所に提出して欺○、支拂。て昨年九月双葉郡龍田村松本隆 命令を掛け取らせんとした事件。氏を四倉町料亭一心事案係カメは平支部三澤判事が審理中の處。ヨ方及び飯坂温泉旅館松島高十日際審終結、來る十六日官開。橋七郎方に誘ひ込み酒をのませ判事係り大嶺、松野尾兩辯護士。て泥解した際に乗じ印鑑を白紙立會で公判開廷と決つた。

四名共謀して 喜美山礦から盗む

既報、密輸中平署に檢査された兵松本隆の助君は密輸中何願面

石炭泥棒の一味首謀者赤井村居に負傷した旨實家へ通知があつ。住秋田縣鹿島郡大島村生れ櫻田、同君は久吉(五八)トメ(五五)平喜多會では十四日午前十時か。勉(三〇)外平市鎌田町五〇自動一、さんの二男で出征前まで警。車業猪狩政秋(三三)同村西小川城炭礦に働いてゐた濃厚な青年。礦山業留留(四三)同村松澤である、實家は農業を営み兩親 藤千六先生及び慶大教授南先生。辰次郎(四八)平市上平喜美山及び兄久芳(一九)弟久次(十五) が來平する、番組左の如し。炭礦自動車運轉手稻本浩次(三辰治)三妹ミチ(二)同ヤス。○の四名は平署の取調が(十一)さんがある。

戦死と戦傷

▲三阪村水田出身立花部隊一等

局に送つた。右四名は共謀して隊西丸仲郎一等兵は去月十七日。昨年六月から十二月までの間平 決死隊に加はり中支戦線で奮闘。市振堀小路佐藤清太郎經營の赤 中右胸部に貫通銃剣を負つた旨。井村喜美山炭礦から石炭、坑木 十日實家に通知があつた。同君。その他千七百圓を窃取したもの。の二男で實家は兩親と兄(二。八)弟泰雄(二〇)君外三人の妹。がある。

人生の葉發行

同町青年團では舊正月同町出身。若松市の白衣の勇士に慰問袋を。贈る。

集つた梅干に 軍部係官驚く

第一線將士に贈る梅干は平市及財力と足をかけねば到底經營出

び石城郡に對し、縣から百餘條來なうこれに現在のデバ。〇〇入の割當があつたので。昨秋以來市町村國婦、愛媛、青。年團の外小學生の手で各月から。飯茶碗へ一つ位づゝ集めてゐた。が銚後の赤誠は其の量價に倍を。超えて二百數十樽に達し縣では。容れ物の樽の配給に嬉しい悲鳴。を上げてゐるが此の難題の總元。縮めとなつた郡市農會當局は。想外の集まりに置きどころが困。り恰度郡中平出張を新築された。同所の倉庫内に山と積まれ昨。日縣と種族廠から現品を見に來。た係官も驚かした。

土砂崩壊 遂に死亡

好間村日曹平炭礦採炭夫銀藏妻

好間村日曹平炭礦採炭夫銀藏妻。鈴木サメ(四二)は九日午後一時。頃同炭礦礦内で肩炭拾ひ中土砂。崩壊し頭部その他に重傷を負ひ。加療中十日朝死亡した。

新春諸會

平市公會堂日本間で新春諸會

平市公會堂日本間で新春諸會。任舞會を開くが東京から師範伊。藤千六先生及び慶大教授南先生。が來平する、番組左の如し。高砂、枕蓑、草紙洗小町、。鬼界ヶ島、安宅、連吟、獨吟。任舞等。

白衣の勇士 若松に慰問

市十五町目三組では新年會の

市十五町目三組では新年會の。費用を節約三四十錢を平市統。後奉公會に寄附。

久野君遺骨 無言の凱旋

平新屋町久野春美君の遺骨は十

三日午後六時二十二分着で凱旋。する。

傷痕軍人 會長鴨氏

濱三郡及び平市を區域とする傷

濱三郡及び平市を區域とする傷。痛軍人聯合會では會長に鴨松次。氏(錦村)を推し事務所を平市役。所におく事になつた。

借りました品を 入質費消

川部村久保木村秀吉方坑夫兄

川部村久保木村秀吉方坑夫兄。二郎(二六)は昨年十二月十一日。盗品を借りた品を入質遊樂に費。消した事件の公判は十日開き懲。役一年を求刑された、十七日判。決を言渡しの筈である。

北支派遣軍 菊地部隊の活動

討伐 部隊は新秩序建

討伐 部隊は新秩序建。設に傾かし成果を収めつゝ。あるが引續き各地に散在する。殘敵の掃蕩を實施多大の戦果。を収めた。一ヶ月間に於ける。出動回数は五〇回、交戦せ。る敵兵力は數千の多きに上り。遺棄死体三〇〇、捕虜五、齒。獲品は小銃八二、同彈藥一六。七五、拳銃五、同彈藥三七、。手榴彈一七、槍、自轉車、雷。

冬の鑛泉

石城の桃源境 小瀧鑛泉

石城の桃源境。小瀧鑛泉。湯本・小名瀧間・坂野の地。御送迎に馬車の用意あり。

愛猫家は 御用心あれ

最近猫の皮が飛ぶやうに賣れ

最近猫の皮が飛ぶやうに賣れ。一枚一圓内外であるため猫と見る。と盗み去つて殺戮する任事が流。行して來た。愛猫家御用心とあ。る。

平市人事錄

▲出生 古銀治町三一國井清氏

▲出生 古銀治町三一國井清氏。四男直英君、大嶺、松崎七郎。四男和昭君、長橋町三〇赤羽。

精神修養に 諸曲仕舞

喜多流白土會

喜多流白土會。一入會隨意。平市町六九。

鹽豚
平市田町
三三三三番
電話三三三番

文部省習字科檢定委員
國定書方平本筆者
鈴木翠軒先生御選定
愛國筆
清樂筆
一本金拾錢より金圓迄

文魁文堂
電話三三三番

精神修養に
諸曲仕舞
喜多流白土會
一入會隨意。平市町六九

精動通信

一月十一日の傳統の姿
鏡開と帳祝の由来

暮れに過ぎて元旦に供へた鏡を行ひ、それから試合始め、積餅を一月十一日に切りて仕末す。古始めがあつて、供へた神酒を、餅を鏡開といひます。キルの直會(チオライ)鏡餅を割つて、言葉を読み申すので、餅を割つて、これは一家より出た行、家でも同じやうに行はれます。事、以前は正月二十日であつたのを、徳川三代將軍大猷院殿家では大福帳を神棚に供へ、鏡が承應三年正月二十日に他界し餅の雑煮を造つて供へる、そのてからは、その忌日を避けて十日の御馳走をこしらへて一日にしのいであります。一家又は懇親の者を招き大に祝、劍道の指南所即ち武藝の道場を催します。特に貸金業者は、これは道場開きの一行式と貸金帳を配つて商運利運を祈るなつて居り、なかなか八かましのであります。其の前日の十日、今でも講道館始め各道場が十日恵美須といふ商業神の祭盛んに行はれます。道場の正面である所から、これを帳祝と高壇には香取鹿島の武神を祭り、合併して行ふ所もあります。神酒鏡餅等を供へ、慎重に祭儀

古い傳統を持つ
正月の小豆粥と餅粥

一月十五日の朝には貧富上下の階級なく、小豆粥または餅粥を祝ひます。これはもと支那に始まつたもので、吳縣の張成と稱する婦人のあきげがあつて正月半ばに白粥をつくりて香を祭れば、養蠶に百倍の收獲あるべしといつたといふ始まる申します。その他正月十五日に小豆粥を以て天狗を祭れば一切の災厄疫氣を除くとか、又高辛氏がその悪娘の鏡を慰むるため生前に好んだ小豆粥を供へて害を防いだなどいふ説もあります。日本では七草粥と同じく、平安朝宇多天皇寛平の頃より行はれ、此の小豆粥を初めは七草粥といつて小豆、大豆、きび、あわ、みごめ、ところいも、米の七種を交ぜて作りましたが、後には小豆と米だけになりました。又地方では小豆を入らずに正月の餅を割つて入れる所もあ

債券・公債
兩替・金融
多田井質店
平市大工町 電五九一

出前迅速
御料理
むぎとろ
さつき
平市紅小路 電四八八

貸地廣告
平市新田前二六番ノ一(縣道ニ副ノ西側)
間口四間一分 六十坪
奥行十五間 六十坪
貸地料一坪二十五錢ノ割
洋細ハ左ニ御問合セ下サイ
中市大町
中野勇吉商店
電話一三三番

漢方 生公華
貼藥 濕布で名藥
肋膜・氣管支・關節・神經痛・肺炎・ロイマチス...
膜・腰痛・ち疾に...
藥 二四五十錢
價 八 四 四
平市五丁目角
山野邊藥局

内小兒科
性病科
午前 宅診
午後 往診
四倉町本町
菅波醫院
病室完成
入院隨意
自炊の便あり
電話六三番

不存賣
おでん 酒の店
やま鳥 味郷
茶めし
配達人入用 電話一四一番
平市一丁目
お惣菜さつま揚・吉原揚

冷凍魚
日本水産特約(電三六三三六)
卸小賣平製氷會社
尾瀬平代理店
尾瀬平(電五三三)

公債・債券
質物一般
三井質店
平市四丁目
電話六〇六番

小兒科
平市南町
志賀醫院
電話一六二番
(入院ノ需ニ應ズ)

内小兒科
光線 院長 安齋 徹
産婦人科
平市田町(電話四五七番)
安齋醫院
入院隨意

内臟外科
レントゲン科
北川外科
醫學博士 北川 芳夫
平市新川町(電四六四)

内外科 一般
金成醫院
金成 忠 義
平市鎌田町(電話三五八番)

花柳病科
泌尿器科
皮膚科
診療 午前八時より
午後九時まで
時間 午後九時まで
(入院隨意)
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町(電話六九二)